



「ベトナムの教育と文化」

岩美町立岩美北小学校 村上 洋 司

1 ベトナム教育のねらい

さて、ベトナムの教育については、「ベトナム教育法」に次のように記されています。

「教育事業を発展させ、国の教育管理体制を強化するのは、国民の知的水準の向上、人的資源の開発、国土の工業化・近代化に貢献する人材の育成、祖国建設・防衛要求への対応、及び国民と国を豊かにし、公正な社会と高度な文明を実現するためである。」これを讀まれて、皆さんはどう感じられたでしょうか。

2 ベトナムの義務教育と普通教育

「普通教育」と聞いて、はてな、と思われる方もおられるのではないのでしょうか。ここでは、小学校から高等学校までの教育と大雑把に考えていただいてもよいでしょう。その中で、小学校の5年間だけが義務教育です。全国的には小学校の就学率は90%を越えていると言われていますが、地方、特に山間部の少数民族が住んでいる地域での就学率は、まだまだ低いのが現状です。それに対して、大都市部では中学校までがほぼ100%に近い就学率であり、この辺りの格差は正は国家の課題として取り上げられています。

ベトナムの学校は9月始まりの2学期制です。小学校の場合は、5月中旬には年度末を迎えますので、実質8カ月程度の通学期間となります。このように早く終わるのは、夏の暑さにも関係があるようです。気温40度、湿度100%近い教室の中で扇風機一つでは勉強など進まないからでしょう。中学校が4年、高等学校が3年の修業年数ですが、これは義務教育ではありません。

3 高 等 教 育

これには、高等専門学校、短期大学と4年生の大学があります。大学は都市部に集中しており、特にハノイ市には全国の大学の半数以上が集まっています。ハノイ市は大学生の街ともいえるくらい若者が多くいます。その多くは、地方からの出身者で、旧正月などで大学が休みになり学生が故郷へ帰ると街は静かになります。

大学への進学率は10%台とまだまだ高くありませんが、大学自体が大変に少ないこともあり、大学入試は熾烈を極めます。首相自らが入試前になると「大学入試不正防止」を訴えるキャンペーンをはり、マスコミなどに呼びかけています。裏返せば、それだけ不正があつとを絶たないということであり、大学に入ることが社会の成功者になることへの第一歩と考えていることにつながります。

また、大学が少ないことは、大学の質にも影響を与えているようです。それは、入学希望者が多いので、それを叶えるために午前と午後、そして夜間の

3部制をしいているからです。教える側もこのような状況ですとどうしても講義形式が多くなり、ワークショップ形式の学習はとても少ないそうです。従って、知識中心の学習とテストが繰り返されているので、大学を出ても実践で役立たない学生が多いのも事実のようです。

4 小 学 校 の 教 育

私の分野が小学校教育ですので、ベトナムの小学校を中心に調べることが多くありましたので、ここでは小学校の様子を報告します。

先程述べましたように、小学校は5年間の義務教育ですので、日本と同じように人間形成の基礎段階と位置づけています。従いまして、次のような「知識」の習得を目指しています。「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、計算することの基礎的技能、身体を鍛練する習慣、衛生的な習慣、歌唱、ダンス、音楽、美術の基礎知識」さらに教室には、ホーチミン氏の肖像画とともに児童生徒へのホーチミン語録より

- ① 愛国心を持ち、人を愛する
- ② よく勉強し、よく働く
- ③ きずなを強く、法を守る
- ④ 衛生を保つ
- ⑤ 謙虚・誠実・勇気

が掲げられており、いつもこれを目標にして努力するように求められます。

小学校でも2部制をし、学校が多くあります。都市部では、生徒数の増加のため教室が不足し、地方では教員不足のために午前と午後の2部制をし、かざるをえないようです。しかし、最近では「全日制」を売りにして、生徒を集めようとする私立学校も出てきたと聞きます。それに対応して、公立学校でも全日制に移行しようとするいわゆる「優秀校」と呼ばれる一部の学校が出てきているようです。

5 小 学 校 で の 教 科

多くの教科は日本と同じです。例えば、国語、算数、道徳、自然科学、歴史と地理、音楽、美術、体育などですが、日本にはあまり見られない教科の特徴として次のような教科が挙げられます。

- ① 団体行動 集団訓練のための時間で様々な発表会のための準備にも充てられます。
- ② 外国語 最近入ってきた教科で、ほとんどが英語となりつつあるようです。
- ③ コンピュータ 時代の要請で、小学校4・5年生にごく最近入った教科です。
- ④ その他 宿題の点検や練習問題を解く時間です。

※詳細は、鳥取県教育委員会 小中学校課のホームページで公開されています。

2007年度「全国大会」報告

2007年度の全国大会は山口で、9月1日から2日かけて行なわれました。

山口は、同じ中国地方であるから、マア近いかな！実際にしてみると比較的交通の便の悪い所で、…しかし「特急おき」で6時間、乗り換え無しです。（新幹線でも可）

さて、鳥取からの一行は3人、なんと寂しい限りではありませんか！ ユネスコ人たる者、やっぱりこのような研究会には行ってほしいと思います。

大会は、例によって式典で始まりました。

特別講演として、（世界）ユネスコ事務局長松浦晃一郎氏の講演でした。松浦氏「やっぱりシッカリ」していっちゃいます。

基調講演は「金子みすず心の宇宙」と題して、矢崎節夫氏の講演がありました。詩人金子みすずの童謡は平和で、優雅で、一面ユネスコ精神に通ずるものがあるように感じました。

本題であるシンポジウムは、「多文化共生社会の実現とユネスコ活動」と題し、コーディネーター国立西洋美術館館長 青柳正規氏で、国連広報センター所長 幸田シャーマン氏、ユネスコ事務局長官房・特別参与 服部英二氏、日ユ協連会長 松田昌士氏等が、それぞれご意見を発表され、なかなか充実したものでありました。（詳細は日ユ発行の「ユネスコ」誌に出ていますのでご覧下さい）

レセプションは、例によって、賑やかに行われましたが、なんと！「韓国忠北ユネスコ」の「呉 世卓先生」がお出でになっているではありませんか！懇親の宴で、十分にお話しすることができ、大変に有意義でありました。

翌日は、早朝から、「分科会」が行われました。

第1分科会「世代をつなぐユネスコ活動」

（最近、若い人がユネスコに入ってくれないので、その対策です）

第2分科会「地域に広げる世界寺子屋運動」

（各地で寺子屋運動をどういう風にしたら良いか、事例を上げての討論です）

第3分科会「ずっと地球と生きるための活動」

（E S D、つまり環境保全の方法の事例発表です）

第4分科会「世界遺産の心につながる地域遺産／大内文化に学ぶ」

（山口の戦国大名 大内氏の遺産、「瑠璃光寺」等の見学、研究など）

分科会後は、「大会のまとめ」で充実した全国大会も終わりました。

私は、ずっと、続けて大会に出っていますが、鳥ユで一番参加者の少なかった事は残念ですね！本当に「エクスカッション等もある楽しみながら参加出来る大会」ですから、皆様、是非予定をとって参加してください！

名誉会長 中村忠文

2007年度 中国ブロック ユネスコ活動研究会報告

地域に根ざしたユネスコ活動を目指して

2007年度は民間ユネスコ運動が発祥60周年を迎え「共に生きる世界を、学び、行動する」活動として各協会が努力しております。人と人、地域と地域が手をつなぎ、そして世界に輪を広げていくという趣旨で、去る10月27・28日の2日間、出雲市で中国ブロック研究会が開催されました。

基調講演

「60周年を迎えたユネスコ」について、日本ユネスコ協会連盟理事長野口昇氏のお話がありました。

分科会の報告

第1分科会「世代をつなぐユネスコ活動」

- ・岡山県美作高校の生徒の国際交流、米作り
- ・出雲高校の生徒の老人施設訪問、募金活動、環境活動等で活動状況の発表がありました。

第2分科会「地域に広げる世界寺子屋運動」

- ・学校訪問して、ユネスコについて説明をしてと協力をお願いすること。
- ・「書きそんじはがき」の回収をお願いする等話し合いがされました。換金したお金には、税金がかかるということでした。

第3分科会「世界遺産と地域の文化遺産」

- ・2007年度の世界遺産委員会で石見銀山が世界遺産に登録されたが、登録がゴールではなく、いかに地域のユネスコ活動に結びつけるか、市民に訴えていくなどが話し合われました。



分科会では、各協会のさまざまな活動状況が報告され、大変、実のある研究会で参考になりました。

今年、世界遺産に登録された石見銀山に隣接する出雲市で開催されたので、関心が高くてたくさんの参加者があり、とても盛大で有意義な会でした。

副会長 矢谷まり子